

第2 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足（2014年）

（『がんばったで！45年』17頁・18頁掲載）

1. 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足

第1 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足（人の縁の積み重ね）（07年～14年）

- 1) 坂和による北京電影学院での集中講義『坂和的中国電影論』（07年10月10日）
 - ・日本側は古澤敏文氏（事務所だより第9号で紹介）、中国側は美術学部の王鴻海教授と劉旭光教授の世話によるもの。
 - ・日本留学の経験もある劉教授は日本語もペラペラ。後述の劉茜懿さんや、日本人留学生の安藤直子さんを含めた約60名の受講生の熱気はすばらしいものだった。
- 2) それから7年。北京電影学院を卒業し、早稲田大学に留学中だった劉教授の娘である劉茜懿さんから連絡が入り、2014年7月30日、劉教授、刘晓清教授、霍廷霄教授（張藝謀監督の映画で美術デザインを担当）たちが私の事務所と自宅を訪問。机の上に並ぶ、『シネマルーム』1～32を中心とした書籍を話題に、事務所での公式対談は有意義なものになった（写真①）。



写真① 事務所4Fの大会議室で

- 3) 続く、会場を自宅マンションに移しての夕食会では、中国映画の話が盛りあがる中で、大いに飲みかつ食べながら、3人の教授たちが北京電影学院聯合作業卒業制作プロジェクト坂和章平賞の設置を提案。坂和を主席スポンサーとして、同賞を発足させる話し合いがされた（写真②）。



写真② 自宅マンションで

- 4) 北京電影学院内での協議が進み、坂和と北京電影学院との間で北京電影学院学生総合映画製作作業新視覚賞に関する次のとおりの協定書を締結（2014年11月）。

- ①坂和は北京電影学院の青年映画芸術を発展させることを目的として、「独自の創作を奨励し、かつ、当該創作に係る著作権その他の権利を保護し、海賊版の跳梁を許さない」活動の首席スポンサーに就任（3年間）。
- ②坂和は首席スポンサーとして、年間100万円を寄付し、イベント等に参加する。
- ③北京電影学院は、学生の映画製作を奨励する「新視覚賞」を創設し、毎年10月以降、3、4年生と院生が製作する映画から受賞者を決定する。
- ④坂和は毎年5月頃に開催する、新視覚賞授与式に参加し、その年度の寄付金100万円全額を賞金として授与し、坂和章平の称号を記載した表彰状を授与する。

- 5) 以上の結果、北京電影学院“実験電影”学院賞が決定し、(予定をやりくりしての)主席スポンサーとしての授賞式への参加を決定（2015年6月）